

第 32 期目録委員会記録 No.8

第 8 回委員会

日時：2009 年 12 月 26 日（土）14～17 時

場所：日本図書館協会 5 階会議室

出席：原井委員長、東、木下、酒見、鴫田、平田、古川、渡邊

<事務局>磯部

[配付資料]

1. ISBD エリア 0 について（メモ）（11 枚-A4、渡邊委員）
2. [Names of Persons]（日本語該当部分案）（4 ページ-A4、東委員）
3. 目録の利用と作成に関する調査（9 ページ-A4、木下委員、酒見委員）
4. NCR 改訂スケジュールと関連事項(案)（1 ページ-A4、原井委員長）
5. NCR 改訂の方向性について（検討メモ）（4 ページ-A4、原井委員長）
6. NCR 改訂に対するメモ（2 ページ、鴫田委員）
7. 日本目録規則の改訂について（私見）（2 ページ、平田委員）
8. NCR の改訂に関する個人メモ（6 ページ、古川委員）
9. NCR 次期改訂について（個人メモ）（2 ページ、渡邊委員）
10. 第 32 期目録委員会記録 No.6（4 ページ-A4、事務局）
11. 第 32 期目録委員会記録 No.7（案）（8 ページ-A4、事務局）

[報告事項ほか]

1. 議事録の確認
第 7 回記録案（資料 11）を確認した。

[検討事項]

1. ISBD エリア 0 について
渡邊委員より、12 月に刊行された ISDB エリア 0 について説明があった（資料 1）。また、以下のような報告があった。
 - ・メディア種別を繰り返す際の区切り記号法について、「+」は本来主従がある場合に使用するものであるので、並列の場合に使うのはおかしいとの異論が後から出ている。
 - ・「Other」、「Multiple」に「Media」という語を付けるのであれば、他の種別についても「Media」を付けるべきであるとの異論が後から出ている。
 - ・事例集については、英語の例にエリア 0 を加えたもので、確定版ではないようである。

2. Names of Persons について

東委員より、Name of Persons の前回委員会での意見交換を反映した修正案について説明があり（資料 2） 以下のような意見交換があった。

- ・ 「Tokyo」は「Tōkyō」に修正する。
- ・ エントリーワードに下線を引いていることを説明する。
- ・ 「In contrast」は「Conversely」にする。
- ・ 外国語に由来する「Krumm」「Alberto」などは原綴にし、外国語に由来しない「Furanki」などは翻字とする。
- ・ 単語の冒頭は大文字にするが、「六代目」の冒頭は普通名詞なので、小文字にする。
- ・ 「東洲齋写楽」は姓名形を模したものと扱い、ノートにその旨の説明をする。綴りはヘボン式に修正する。
- ・ 「Composed name」は「Compound name」にする。
- ・ 「Inverted name」は、もう一度用語を検討する。
- ・ 「ten different」は「many different」「more than ten」などにする。
- ・ 「family name」「personal name」については、他の言語の案を確認して合せる。
- ・ 参考文献の区切り記号については、他の言語の案を参考にして修正する。
- ・ 締め切りの 1 月 15 日までに、修正した案をメールリングリストで検討する。

3. 目録の提供と作成に関する調査について

木下委員、酒見委員より、目録の提供と作成に関する調査についての前回委員会での意見交換を反映した修正案について説明があり（資料 3） 以下のような意見交換があった。

- ・ 問 3 は OPAC 導入館への質問とする。カード、冊子体のみのところは問 1 への回答で終了とする。
- ・ 問 2-8 の 5 は削除して、独立の項目とする。
- ・ 「分からない」の選択肢は残す。
- ・ 問 7-1 は資料の区別、問 7-2 は作業内容に関する質問として整理する。
- ・ 問 5～問 8 は、新規受け入れの資料についての問いにする。
- ・ 問 7-2 は、「書誌データの作成」「所蔵データの作成」「典拠データの作成」「請求記号（分類を含む）の付与」「装備」「その他」とする。
- ・ 問 5 の NCR は、新版予備版と 1987 年版以降で区分する。
- ・ 問 10-2 は、の「カード目録、冊子体目録」を「カード・冊子体目録」に修正し、カッコ内の番号も修正する。
- ・ AV-MARC の種類については、MARC について問 8-4 で質問しているので、別項目とはしない。
- ・ 問 8-5 は、コピーカタロギングではないオリジナルカタロギングをしている数字を知ることが目的とした質問にする。

4. NCR 改訂について

渡邊委員（資料 9）、鴫田委員（資料 6）、平田委員（資料 7）より、NCR の改訂について説明があり、以下のような意見交換があった。

- ・ エンコーディングを扱わない、実体を規則上は等価に扱うなどの RDA の考え方をどの程度取り入れるのかを検討する必要がある。
- ・ AACR は RDA に改題され、NCR の名称も検討する必要があるが、なるべく変えたくない。
- ・ NCR の改訂、維持の必要性、意義については、明確にしておく必要がある。またその動機付けは、RDA 等への批判的なものではなく、積極的なものであるべきである。

[次回以降の予定]

1 月 23 日（土）

2 月 20 日（土）（仮とし、後日決定する。）